

氏神様いろいろ

氏神の意味

常陸大宮市では、毎月どこかで、「氏神様のお祭り」が催されています。氏神というと、神社にいる地域を守護する神様や、その神様が鎮座する神社をイメージするかもしれません。大字単位で行われる祭りの神社の神様は大字の氏神、坪の氏神祭りの神様は坪の氏神というように氏神には色んな種類があります。氏神は、地域（旧町村・大字）を守る神様、同姓の集団を守る神様、個人の屋敷を守る神様がいます。住む土地の集団（地縁）、同じ姓や同じルーツをもつ集団（血縁）を単位に祀られているのが氏神です。地縁、血縁それぞれの集団を単位に祭祀規模が組織されている神様の総称と捉えてもいいかもしれません。

氏神祭祀の最小単位は個人の屋敷です。屋敷に小社・小祠を設けて年に一回、社を一新します。次に大きいのが同じ姓で集まる祭祀です。一族の本家筋に集まり、社を一新し、共同飲食をします。ワラホーデンを作った記憶はありませんか。あるいは氏神様の前で普段は食べない赤飯や御煮しめ、餅を味わった思い出はどうでしょうか。

それから姓ではなく、坪や大字といった地縁での氏神様のお祭りへと規模が広がり、祭祀には神職による神事や餅まき、神輿巡行などが伴ってきます。暑いなか神輿を担いで大字を練り歩き、力を自慢した夏はいつの頃だったのでしょうか。

祭祀組織との関係

かつて数軒でしていた氏神様のお祭りが今は一軒、



▲長田地区 K 姓の氏神祭り



渡瀬 綾乃氏

民俗部会専門調査員（筑波大学大学院生）

二軒だけ、あるいは話し合いの末、数年前から祭りを休んでいるというのはあちらこちらで聞く話です。とくに坪や同姓の氏神は、その集団の居住地が背にする山中にあることも多く、参拝の難しさが継続の弊害になることがあります。人の営みのなかで生まれた行事が、暮らしのうつろいのなかで変化するのは自然の流れです。

同族や坪の氏神の社がワラホーデンから木や石の祠へ、飲食が当番の家から飲食店へ変わっていく。このような徐々に起きる変化は新聞やテレビで報道されることはありません。しかし、山中に残り続ける氏神や、社に残された神輿のルーツであり、そこにこめられた祈りは、祀ってきた集団の由来や背景を象徴するものです。民俗部会として、それらを記録し文字に残すことは、市の歴史を編さんする事業として、大切な一つだと考えています。



▲諸沢地区 N 家の氏神（石祠とワラホーデン）

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111(内線344)